

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2013年3月1日
(No. 69・雪がよく降ったね号)

2013
*
3月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：山崎 光久



勝手にレッドデータ of 志木 (55)

アシ原 (ヨシ原)

アシは湿地に生えるイネ科の大形草本。アシは「悪し」に通じることによってヨシとも呼ばれます。条件が良ければ大群落のアシ原をつくり、オオヨシキリやカヤネズミの棲みかになり、水質浄化にも役立ちます。昔から葦簀（よしず）や屋根葺き材として利用され、宗岡地区のような川に囲まれた土地では縁が深かったと思われます。

市役所前の新河岸川水辺再生工事では富士下橋下流左岸側がヨシ・オギ群落の保全地区と位置付けられています。以前に比べて乾燥化していますが、何とか良好なアシ原に戻したいものです。

(天田 眞)

1/13
(日)

県内一斉ガンカモ類生態調査

毎年恒例の埼玉県生態系保護協会主催の「ガンカモ類の生態調査」が行われ、参加した同協会志木支部に調査協力をしました。

気温5℃で、空気は冷たかったものの、風は弱く快晴で良い調査日になりました。志木大橋から市役所の先の新河岸川との合流地点まで約2kmを参加者13名でカモの種類と数を数えました。

県内全体のカモは、17種32,318羽で、昨年18種32,909羽からは、種類で1、数で591羽減でした。今年は1月14日(月・祝)に大雪が降り、14日に調査を予定していた支部が中止したこと、その後湖沼が凍ってカモが移動したことなどを勘案すると、必ずしも減少したとはいええないと思います。ガンカモ調査となっていますが、県内では3年連続でガン類は確認されていません。

柳瀬川では、カモは4種238羽で、昨年より種類は1種類減りましたが、数は26羽増加しました。

●内訳は次のとおりです。()は昨年

ヒドリガモ 109羽(91羽)

オナガガモ 20羽(3羽)

コガモ 67羽(77羽)

カルガモ 42羽(39羽)

マガモ 0羽(2羽)

調査を始めてから3番目に少なかったですが、釣り人が増えたこと、高橋が耐震化工事中であること、旧ワイス跡地に商業施設が出来、またマンションが建築中で日当たりも悪くなっているなど、野鳥にとっての環境は年々厳しくなっています。(山崎光久)



2/10
(日)

冬の野鳥観察会



当日は快晴微風の好天気で、絶好の観察日となりました。今年度から志木市教育委員会生涯学習課の後援をいただいて大人向けのプログラムにしました。「広報しき」の他、市の掲示板に案内を出してPRに努めた結果、会員13名に加えて、一般参加者18家族22名の参加がありました。

サミット裏でヒドリガモ・コガモ・オナガガモ・セキレイ類でセキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・コサギ・ダイサギ等を観察しました。

今年はコースを変えて、富士見橋を渡って柳瀬

川の左岸側を歩きました。

水谷たんぼでは、タカ科のノスリが高圧線鉄塔の下の方に止まっており、観察者全員が感動しました。ノスリはここ数年、毎年のように見られますが観察会では初。水谷たんぼにはホオジロ・カシラダカ・カワラヒワなどの小鳥類が多くいますが、動きが激しいためフィールドスコープでじっくり観察できないのが残念です。

高橋を渡って旧ワイス裏ではイソシギ・イカルチドリなどを近くから観察することが出来ました。旧ワイス跡地にはホームセンターとスーパーマーケットが出来、マンションも建築中で河川への日照が大きく減少。その為かこの辺りで観察できる野鳥が減っているような気がします。

当日は全部で29種類の野鳥が見られ、参加者全員満足のうちに終わることが出来ました。

(山崎光久)

2012年 柳瀬川の野鳥

柳瀬川での月1回の調査で確認した野鳥の数の記録です。

カモ類では、カルガモが最も多く年間で360羽、次いでコガモ244羽、ヒドリガモ228羽でした。(毛利)

●調査方法

- 1) 毎月第3日曜日、午前9時～12時に実施(悪天候の場合は中止)
- 2) 一定の速度で歩きながら半径50mの範囲を目安に出現した野鳥の種名と数を記録。
- 3) コース
志木中学校前 → 高橋 → 栄橋 → 柳瀬川左岸 → 柳瀬川旧堤防
→ 水谷田んぼ → 富士見橋 → 志木中学校前

この調査は「柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング」として1997年6月より行っています。

*主催=NPO法人エコシティ志木 / (財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

*記録=山崎光久

| 鳥名 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------|-----|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 1 カイツブリ | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 2 カワウ | 0 | 2 | 6 | 1 | 5 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| 3 ヒドリガモ | 48 | 65 | 43 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 56 |
| 4 コガモ | 29 | 58 | 36 | 46 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 18 | 27 |
| 5 マガモ | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 |
| 6 カルガモ | 48 | 30 | 24 | 27 | 18 | 32 | 28 | 14 | 27 | 19 | 40 | 53 |
| 7 オナガガモ | 2 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 8 アオサギ | 2 | 5 | 4 | 0 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 6 | 5 | 6 |
| 9 ダイサギ | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 |
| 10 コサギ | 2 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 3 |
| 11 ゴイサギ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 セグロカモメ | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 イカルチドリ | 15 | 15 | 3 | 0 | 2 | 0 | 4 | 19 | 10 | 6 | 6 | 26 |
| 14 コチドリ | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 イソシギ | 3 | 9 | 5 | 6 | 1 | 0 | 1 | 4 | 3 | 3 | 2 | 7 |
| 16 タシギ | 1 | 2 | 10 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 17 ノスリ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 18 キジ | 1 | 3 | 4 | 3 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 19 キジバト | 21 | 3 | 6 | 1 | 7 | 6 | 9 | 2 | 10 | 1 | 7 | 18 |
| 20 カワセミ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 21 ヒバリ | 31 | 4 | 2 | 2 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 3 | 5 | 7 |
| 22 ツバメ | 0 | 0 | 0 | 11 | 13 | 18 | 35 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 23 イワツバメ | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 24 キセキレイ | 3 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 |
| 25 ハクセキレイ | 16 | 12 | 20 | 5 | 1 | 4 | 5 | 1 | 0 | 15 | 14 | 15 |
| 26 セグロセキレイ | 4 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 6 | 5 |
| 27 タヒバリ | 29 | 12 | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 28 ヒヨドリ | 16 | 4 | 3 | 23 | 7 | 4 | 0 | 0 | 0 | 47 | 14 | 13 |
| 29 モズ | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 2 |
| 30 ジョウビタキ | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 31 ツグミ | 3 | 9 | 12 | 18 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 32 オオヨシキリ | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 17 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 33 セッカ | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 34 シジュウカラ | 7 | 2 | 1 | 4 | 3 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 35 メジロ | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | 0 |
| 36 ホオジロ | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 37 カシラダカ | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 5 |
| 38 オオジュリン | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 39 カワラヒワ | 1 | 1 | 11 | 8 | 1 | 2 | 7 | 1 | 23 | 12 | 18 | 21 |
| 40 スズメ | 168 | 112 | 159 | 11 | 69 | 83 | 45 | 87 | 129 | 260 | 147 | 138 |
| 41 ムクドリ | 17 | 38 | 43 | 26 | 28 | 159 | 14 | 35 | 110 | 28 | 18 | 2 |
| 42 オナガ | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 43 ハシボソガラス | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 |
| 44 ハシブトガラス | 12 | 2 | 2 | 0 | 5 | 9 | 5 | 1 | 6 | 15 | 7 | 0 |
| ドバト | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 59 | 1 | 21 |
| アヒルの仲間 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

柳瀬川の浚渫工事



←昨年6月の様子。その後水位が下がり水路は干上がった

柳瀬川の最下流にあたる志木では、上流に比べて勾配が大変緩くなるため、大雨で上流から流れてきた土砂が長年にわたり堆積してきましたが、管理者の埼玉県では3年前から毎年冬季に川底の浚渫工事を実施しています。

上流の志木ニュータウン方面から開始し、昨年は富士見橋下流から志木中学校手前まで実施されました。1・2年目は単にコンクリート護岸の低水路内の砂礫を掘削するのみでしたが、3回目の昨年の工事箇所は、左に緩くカーブした内側に土が堆積し草が生え、小さな水生生物の棲みかになっていたため、私たちは埼玉県（朝霞県土整備事務所）に対し、なるべく自然な水際を残すような工夫ができないか要望していました。県では要望に応じて、草の生える自然な水際にするため、安全上問題ないカーブの内側にあたる左岸（富士

見市側）のコンクリートブロック護岸を全面撤去し、さらに、水際に1か所の小水路（ワンド）を造成してくれました。（水路は3月の竣工時の水位に合わせてつくられましたが、夏にかけて徐々に水位が下がり、現在は完全に干上がった状態になっています。）

今年は少し時期が遅くなりますが、東上線と富士見橋の間で3月～5月頃に浚渫工事がおこなわれる予定で、この区域の右岸（志木市側）の水際でも新たな試みができないか検討しています。

この事例を通して、本格的な改修ではない維持管理の工事でも、多自然川づくりの考えを活かしていけるということがわかりました。今後も官民協力の努力をしていきたいと考えています。

（天田眞）

1/13
(日)

多自然川づくり交流会

〈「川の再生交流会」多自然川づくり分科会のプレ企画〉として埼玉県河川環境団体連絡協議会（略称：埼玉河連）の主催で開催されました。不老川・市野川・南小畔川の拡幅・改修における多自然川づくりの取り組みについての事例発表とともに、当会からも、柳瀬川浚渫工事に伴うコンク

リート護岸撤去の事例を報告しました。埼玉県は多自然川づくりの動きでは遅れている印象がありますが、今年度は各県土整備事務所職員が参加し多自然川づくりの勉強会が続けられたとの情報があり、今後が期待されます。

（天田眞）

新河岸川・柳瀬川合流点周辺が志木市の公園に

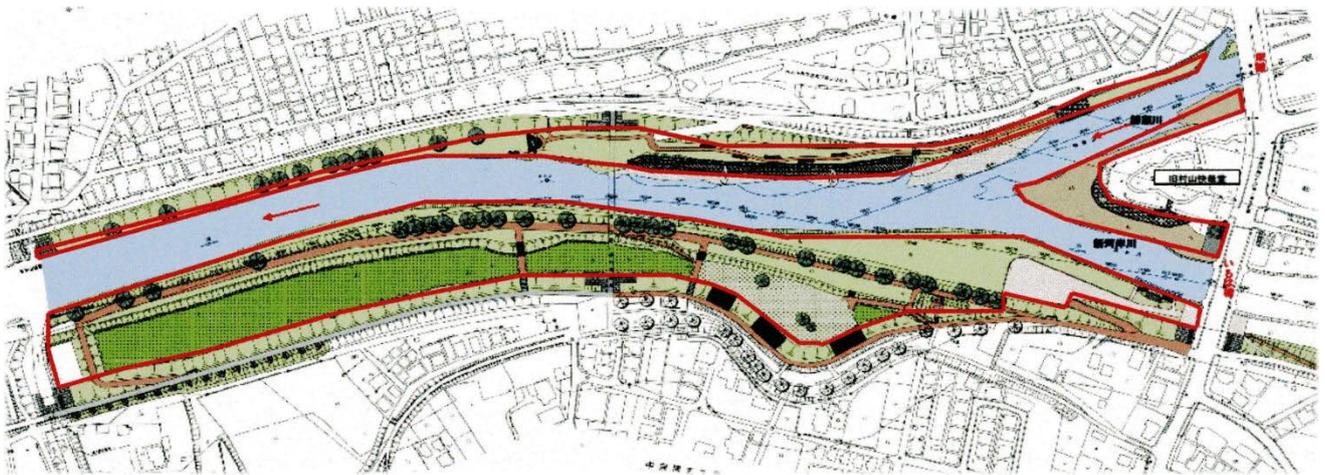
埼玉県の水辺再生 100 プラン事業で取り上げられ1年前に完成した新河岸川・柳瀬川の合流点付近が、4月より志木市の公園として占用され、市の管理になる予定です。

その区域は、新河岸川いろは橋と柳瀬川栄橋から下流へ、左岸側郷土樋管（せせらぎのこみちの流末）、右岸側田子山樋管（朝霞市との境界）までの堤外地（堤防の川側）の高水敷（平らな土地の部分）で、堤防の部分と水面は従来通り埼玉県の管理です。この区域は従来より「さくらのこみ

ち」「こもれびのこみち」等とともに将来的に「いろは親水公園」の中核となる様に位置づけられていたところです。

当会では富士下橋下流の右岸側で埼玉県の「川の国応援団」に登録しごみ拾い等を行っていますが、これについては従来通り継続されます。尚、右岸側の富士下橋上流域は「市場町内会」、左岸側の広場や遊歩道等については「みかづき会」が川の国応援団に登録し活動しています。

(天田眞)



2/3
(日)

川の再生交流会

毎年この時期に開催される埼玉県主催の催しで、当会から6人参加しました。川の再生といっても活動団体の想いは様々ですが、各地で活動している市民の参加で賑わいました。午前の全体会では活動の事例発表や、長年にわたり川の清掃活動等を行っている、当会など19団体への感謝状贈呈等があり、ロビーのパネル展示には当会も水塚調査の資料を展示しました。午後は埼玉河連の企画運営で6つの分科会に分かれ、当会メンバーは「川の好感度チェック」「多自然川づくり」「にぎわいの川づくり」の分科会に参加しました。



(天田眞)

聞き書き「金子家の蔵と大水」

志木まるごと博物館河童のつづら担当

毛利 将範



通りから見た金子家の蔵

これは「ミヅカ」ではない。「クラ」です。

ミヅカ（水塚）というのは柱が出ている。クラ（蔵）の柱は塗り込められている。水塚はあったんだけど。向こうに「穀倉（こくぐら）」「文庫倉（ぶんこぐら）」と、三つあった。

昨年11月3日（土・文化の日）、エコシティ志木主催で「志木ぶらり散歩『宗岡の水とのかかわりと語り部を訪ねて』」を開催しました。宗岡の水にかかわる生活の「文化的景観」と「語り部」をキーワードにし、今回は中宗岡3丁目の水塚所有者の方から興味深いお話を伺いましたので、本稿ではその概略を記します。

訪問したのは8代続いているという中宗岡3丁目の金子さん宅。「昭和8生まれの79歳。ここで

生まれここで育ちました」という金子久子さんからお話を伺いました。

そこでいきなり「うちの水塚ではない」と言われたわけですが、我々は母屋からさらに高く土盛りしてあるところに建つ建物をひとくくりに、つい「ミヅカ」と呼んでしまいますが、金子家のように特にクラが複数あるような家では用途によりクラの名称が決まっているようです。

つまり水塚とは、あくまでも大水に備えた施設で、高い土盛りの上であり、貴重品の収納と避難場所としての機能がある建物ということです。そして「蔵」とは、柱をも含めて壁を厚く塗り込め耐火・盗難除けに重きをおいた施設ということに



金子久子さん



蔵



蔵と蔵前（右）

なります。とはいえ、柱を塗り込めた水塚も存在しますので、その区別は厳密ではありません。

家は30年くらい前までは茅葺きの屋根で、(関東)大震災でつぶれたり、明治43年の水害の後なおしたりしている。

おじいさんが家を建てるために水塚は壊した。この母屋を建て直すために裏の「ジギョウ」という蔵の高くなっていてドロを持ってきて建て直した。子どもじゃ飛びつけないくらい高くなっていて。その時に茅葺きから変えた。

茅屋根の一番先は「ブジヨシ(無事良し)」と言って「ヨシ」を使っていた。茅より強いんだね水に対して。茅は内間木とか田島とかにあったんだけど、最後に昭和33年のときに直したときは群馬からトラックで買ってきた。無くなっちゃったんですね、ここには。

明治43年の大水のときはね、おばあちゃん、乳呑み児抱えてね、水難のときの舟があるんです、いまだにあるけど、それに乗ってね、旦那のお姉さんが浜崎ってところに嫁に行っていてね、その家に避難してね。それで犬まで連れて行って。あの、なんかもう凄い流れでね、新河岸川が渦巻いててね。「乗りだした舟」っていう言葉があるけれども、こんな舟、乗んなきゃよかったというような思いしてね、乳呑み児抱えて行ったんですって。そしたら、もう、犬がそこでオシッコするとね、宗岡からお嫁に行った人は困って、犬に小言言われると自分に言われているような気がして。

土用米を売ると高いと言ってね、穀倉へいっぱいストックしてあったの。みんな濡れちゃって。積み上げた俵が2段から3段浸みるとね、乾いて

いるから、上に、スイーっと、吸い上げるんですけどね。それでみんな浸みちゃってね。浜崎の家の近所の筵借りて、いっぱい広げて干すんですって。そうすると、ようやく干し終わったと思ったら夕立が来たりね。だからそう、もう終いにはおじいさん、菓子屋へ売ったっていう話を聞いたけど。うん。麴みたいになっちゃったんじゃないですか。

金子さん自身は大水には遭わなかったんですか。

昭和13年、いや16年かな。大水がね、うちの庭には上がらなかった。それで夏休みが終わったら、小学校でね、床へ浸水したのものには鉛筆3本くらいくれたんだよ。私はもらえなくて。アハハハ。がっかりしちゃった。ハハハハ・・・。

小学校3年生の時かな。夏休みにね。なんか南畑(富士見市) 助けるために、みんな土手割って水入れたんだとかなんだとかあって、それでね、土手切って流してね。こっちも、あの、宮土橋の方の土手切ってね。

クラは今、どういった使い方されていますか

孫たちがお雛様入れたり、お葬式でもらったお菓子入れたり、ろくでもないものがいっぱい入ってるよ。

もう、お雛様だってね、気の毒に、親に15人揃いだとか買ってもらったって、もう二年目からやらないんだからね。

.....

ここに紹介しきれない興味深いお話しを1時間ほどおうかがいしました。宗岡の語り部ともいえる金子さんのお話、また機会があれば是非ご紹介したいと思いますし、また訪問の機会も設けられればと思っています。お楽しみに。



蔵の内部



長屋門に保管されている舟



金子家の遠景

2/5
(火)

柳瀬川流域水循環市民懇談会

健全な水循環を取り戻そうとの、「柳瀬川流域水循環マスタープラン」(平成17年)、「柳瀬川流域水循環アクションプラン」(平成21年)に基づくフォローアップ状況をチェックする年に1度の会で、荒川下流河川事務所の主催です。

事前調査に基づく詳細な資料が用意され、その内容は、①柳瀬川やその支流についての流量・水

質の測定値と経年変化、②流域自治体(11県都市町)の取り組み状況、③流域市民・市民団体(当会も含む)の取り組み状況、④市民からの意見と回答、といったもので大変参考になりました。

(天田眞)

2/10
(日)

川でつながる発表会



2月10日に「新河岸川流域川づくり連絡会」主催による「第8回川でつながる発表会」があり、参加してきました。会場の練馬区立大泉南小学校は100名程の参加者で埋まりました。

午前中は、会場を出て西武池袋線に近い緑橋から白子川源流付近まで歩いて観察し、周辺の緑地や農地も見回ってきました。

緑橋付近の水は濁りもなくきれいでしたが、今は水量が少なく、源流付近には全く水がありませんでした。絶滅危惧種のホトケドジョウも泥の中に隠れて過ごしているようです。

午後は6団体(早稲田大学・法政大学・自由学園・明法中学高等学校・浮間小学校・大泉南小学校)からの発表があり、天田代表もコメンテーターとして参加しています。発表者の皆さんの今後の活躍を大いに期待します。

間に1時間ほど新河岸川流域パネルセッションがあり、エコシティ志木からもA4用紙25枚のパネルを展示しました。

最後に、発表団体への表彰を行って終了となりました。(青木明雄)

訃報

当会会員の岩上弘さんが2月22日、77歳でご逝去されました。

岩上さんは、当会設立時からの役員として、また(財)埼玉県生態系保護協会の理事・初代志木支部長として志木市の環境保護・環境教育にご尽力され、多くの功績を残されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

● 志木 自然インフォメーション ●

生き物情報は→ ファクス 048-471-4275 e-mail : qwj11624@nifty.com (毛利)へ
ホームページ「発見!! 街の自然」<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

- ◆アライグマ(1)→12月29日(土)志木市本町。庭先に置いてある水槽からランチュウとリュウキンを取られました [寺田明子]
- ◆ハヤブサの羽(1)→12月27日(木)7時過ぎころ、志木市幸町1 [毛利将範]
- ◆ノスリ(1)→12月16日(日)水谷たんぼで [ウォッチングで]
- ◆カイツブリ(2)→12月16日(日)柳瀬川・栄橋上流ビバホーム向かいあたり [ウォッチングで]
- ◆クサガメ(2)→1月20日(日)柳瀬川・野鳥 & 川の生き物ウォッチングで [青木明雄]
- ◆タゲリ(1)→1月16日(水)午後、雪の荒川土手で [大田文佳]
- ◆カシラダカ・ホオアカ・セッカ・オオジュリン・タヒバリ→1月15日(火)昨日の雪が残る水谷たんぼで。いつもは草の陰にすぐに隠れるカシラダカが100羽以上見れました [山崎光久]
- ◆ノスリ(1)→1月8日(火)午後4時ころ、柳瀬川。志木市役所近く、栄橋の上流 [山崎光久]
- ◆シジミ(1)→1月6日(日)柳瀬川・志木中学校下流あたりで。イカルチドリが水の中から拾い上げたのがシジミのように見えます [毛利将範]



シジミ(1/6) [毛利]



ノスリ(1/8) [山崎]



ホオアカ(1/15) [山崎]



クサガメ(1/20) [青木]



カイツブリ(12/16) [毛利]



ハヤブサの羽(12/27) [毛利]

環境 ひとくちメモ (27) 伊藤 智明

「奄美・琉球」の世界遺産 暫定一覧表への記載

平成25年1月31日に「奄美・琉球」を自然遺産として日本の世界遺産暫定一覧表に記載することが決まりました。

今後は、国立公園等の保護地域の調整、外来種問題への対応、保全管理体制を整備などを行い、具体的な推薦地域を特定した上で、早期に正式な推薦書を提出し、世界遺産一覧表への記載を目指して取組を進める予定としています。

自然遺産は、世界的な見地から見て観賞上、科学上又は保全上顕著な普遍的価値を有する特徴ある自然の地域、脅威にさらされている動植物種の生息地、自然の風景地等が対象となります。



世界遺産一覧表記載手続きの概要(フロー図) ※締約国が行うこと

日本には現在、屋久島(平成5年)、白神山(平成5年)、知床(平成17年)、小笠原諸島(平成23年)があります。

(出典)環境省 報道発表資料 平成25年1月31日「奄美・琉球」の世界遺産暫定一覧表への記載について
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16268>

☆会員状況

2012年度更新済み会員 (2/19 現在)

個人正会員 46

団体正会員 2

賛助会員 3

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくお願ひします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

彩の国南西部地域 NPO 連絡会

川の国応援団

彩の国みどりのサポーターズクラブ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

志木市環境市民会議 からの報告

志木市では「第二期志木市環境基本計画」を平成21年3月に策定しています。市民の間に知られているとは言えませんが、「地域環境の保全と創出に向けて、地域レベルにおける施策を総合的かつ計画的に維持するための基本的な取り組みを明らかにし、市民・事業者・市の各主体が共通の認識を持ちながら、自主的、積極的に参加することによって、理想の環境像を実現する」ことを目的にし、理想とする環境像は「人とひとが織りなす、川のまち志木」としています。

また、この計画を策定・推進するために「志木市環境市民会議」が設置されています。この会議は策定後長く招集されていませんでしたが、1月8日(火)、昨年10月に再開後3回目の会議が開かれました。

今回の会議では、15名中9名が参加し、人事と今後の進め方について話し合われました。人事では、委員長に毛利将範、副委員長に山口美智江と、当会から2名が選出されました。

そして、今後の進め方については、基本的に2ヶ月に1回の割合で開催すること、不定期で自然保全再生計画の検証・評価作業が開催されること、新しい委員の募集はおこなわないということが確認されました。

意見交換では、昨年11月1日に開催された「自然保全再生計画の検証」作業が印象に残ったようで、排水路の工事に関しての水路や周辺の植物・環境調査についての感想が多く出されていました。また、「検証・評価の必要性」「市内の活動の共有」「連携」「市民の間に浸透させるには」などがキーワードとして出され、できることからやっつけこうと、「市役所ロビーでのお知らせコーナー」「マイバッグの推進」など具体的な提案もありました。

今後は、会議としてできることを具体的に積み重ねていきたいと思ひます。その際、当会の活動は重要な要素になると考えられます。皆さまのご支援をよろしくお願ひいたします。(毛利将範)

アブラムシは日本に700種もいるそうです。植物の枝や葉に寄生し、ストロー状の口を差し込み、光合成で作られた養分の多い樹液を吸います。園芸や野菜づくりをしているとあつという間に大集団が現れて驚きますが、普通見かけるアブラムシは全てが雌で、胎生で雌の幼虫を産み、これが10日から2週間で成虫になり、また幼虫を産むという具合でどんどん増殖します。そして晩秋になると雄が生まれ、交尾し卵を産み、これが越冬します。卵は春に孵化して雌が生まれ、以後は胎生雌の世代が続きます。アブラムシのコロニーを観察すると大小の虫が一緒にいるのがわかりますが小さいのは幼虫です。

中には翅が付いた個体がいることがあります。アブラムシは種によって寄生する植物が決まっていますが、世代によって別種の植物へ替える種があり、この時に翅のある個体が生まれて移動します。過密になって同種の植物に移動

する場合があります。

アブラムシの卵を目にするのは殆どありませんが、ブナ科の樹木に付くクリオオアブラムシは幹・枝に大量の黒い卵を産みつけるので雑木林などで見かけることがあります。

アブラムシには白い粉や綿状の物質を纏っている種がありますが、これはロウ物質で、同じ様に樹液を吸うカイガラムシやハゴロモなどにも見られるものです。

アブラムシの天敵はテントウムシが良く知られていますが、コクロヒメテントウの幼虫は綿状物質につつまれており、ある種のカイガラムシにそっくりです。

クサカゲロウは幼虫・成虫ともアブラムシを食べます。幼虫には背中にアブラムシの食べかす等のごみを沢山背負って体を隠しているものがあります。

ヒラタアブの幼虫もアブラムシを食べますが、ウジ状で鳥の糞のようにも見えます。



大小混ざっているアブラムシの集団。小さいのは幼虫



コナラの幹に産み付けられたクロゴマの様なクリオオアブラムシの卵塊



白い蠟物質の綿毛をまとったエノキワタアブラムシ



白い蠟物質の突起をまとったコクロヒメテントウの幼虫



ウドンゲの花と呼ばれるクサカゲロウの卵



クサカゲロウの幼虫。ごみを背負っていることもある



クサカゲロウの成虫。ひ弱な感じだが成虫もアブラムシを食べる



ヒラタアブの仲間の幼虫。半透明なタイプで鳥の糞のように見える



ヒラタアブの仲間。成虫はアブラムシは食べない。ハチと違い翅は1対



地球と日本の自然 (8)

水の恩恵について①

加藤 健二

水は生物生命にとって不可欠ですが、水が無ければ私たち人間も数日間しか生きていられません。日本は幸い写真のように「水三尺流れれば清し」と言われ、水にほとんど不自由しない数少ない国の一つです。世界の多くの国は、日本ほど水の恩恵を受けられるわけではなく、世界陸地の4分の1近くは年間降雨量が250mm以下のいわゆる砂漠地帯とされています。(人為的な砂漠化も含めて)

さて水の源は、主に海洋から蒸発した水蒸気ですが、これが地上の山脈にぶつかり雨や雪として地表に降り注ぎます。特に大陸周辺の高い山脈により、水蒸気を含んだ大気は、山脈に沿って上昇し、温度が下降し、水(気体から液体に)となって地上に降ります。高地においては雪となり、これが自然のダムとして水保持の機能を果たします。さて雨を落としたあとの山脈の風下側では、水蒸気が少ない乾燥した大気になり、広い地域で降雨量の少ない、砂漠の気候となります。湿度は10%~20%の世界となります。

日本は四方を海に囲まれ、かつ適度に高い山を持ち雨が期待できる地形にあります。しかし地球の緯度(北緯30~40度)で見るとアフリカ、中央アジア、アメリカと多くの砂漠が存在する緯度に日本はありますが、砂漠にはなっていません。



緯度は砂漠地帯ですが、日本付近を通る偏西風が、8,000m級のヒマラヤ山脈に遮られ、大きく南方向に押し下げられ蛇行するためと言われます。これにより偏西風は中国大陸の乾燥した直線的気流ではなく、南および東シナ海を横切り水蒸気を豊富に含んだ大気となります。この大気が日本列島の山脈を超える時に豊富な雨をもたらします。日本で降雨量の多い場所は鹿児島県屋久島、三重県尾鷲、和歌山県などが有名ですが、高緯度地域では雪としてほぼ年間にわたって貯水されます。中部地方の日本アルプスから東北地方、北海道と日本のほぼ半分の地域が雪の恩恵を受け農業、牧畜、飲料水など多方面で恩恵を受けています。

編集後記



◇当会会員であり、いたばし野鳥クラブ会長・日本ワイルドライフアート協会会員の栗林菊夫さんから著書の提供を受けました。『鳥で遊ぶ絵問・』(どうぶつ社刊、くりばやしきくお著)。ウィットに富んだ絵と「うんちく&怪説」に思わずスリとなります。(梟)

エコシテイ志木通信

第69号 2013年3月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシテイ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

災
エコシティ志木
の
イベントカレンダー
2013年
3月→6月



昨年3月20日(火・祝日)「新河岸川ぶらり散歩」のようす <写真:毛利将範>



親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人……

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月ハガキ等で、別途行事案内をしています。



■ボランティア活動に参加しよう

◆斜面林の手入れ（西原ふれあい第3公園）

＜原則として毎月第二日曜日、第四土曜日＞

【日程】3月9日（土）／4月14日（日）／4月26日（金）／5月11日（土）

／

5月25日（土）／6月9日（日）／6月22日（土）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分に東上線側入り口の坂を登ったところ

【内容】西原ふれあい第3公園（旧・西原斜面林）の清掃・下草刈り・急斜面保全等の作業を行います。

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【費用】無料

【主催】NPO法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【協力】志木市道路公園課



◆斜面林の手入れ（いろは親水公園）

＜原則として毎月第四日曜日＞

【日程】3月23日（土）／4月27日（土）／5月26日（日）／6月23日（日）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋（志木市本町2丁目ノルストホフ志木の隣）

【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、ごみ拾い・下草刈り・シュロの伐採・外来植物の抜き取り等の作業を行います。

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

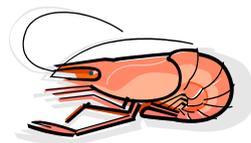
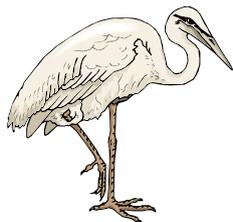
【費用】無料

【主催】NPO法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【協力】志木市道路公園課



■調べてみよう



◆柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング<毎月第三日曜日>

【日程】3月17日(日) / 4月21日(日) / 5月19日(日) / 6月16日(日)

【時間】いずれも9時~12時 (雨天時は中止)

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手(志木市柏町3-2-2)

【内容】※種類がわからなくても参加出来ますのでご心配なく。

(1) 野鳥: 柳瀬川に沿って約4km 弱を散策しながら調査します。

<持物> 双眼鏡、あれば野鳥図鑑

(2) 川の生き物: 柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。

<持物> 川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑

【費用】200円/家族(会員・中学生以下は無料)

【主催】NPO 法人エコシティ志木&(財) 埼玉県生態系保護協会 志木支部

◆柳瀬川の春の自然を五感で感じてみませんか

【日時】4月28日(日) 9時~12時頃 (雨天時は中止)

【集合】東武東上線・柳瀬川駅前サミット/三井住友銀行前の「円形広場」

【持物】筆記用具、あればルーペ、図鑑

【費用】会員無料(一般200円/中学生以下は無料) ※家族は全員で1名扱い

【主催】NPO 法人エコシティ志木&(財) 埼玉県生態系保護協会 志木支部

【後援】志木市教育委員会 生涯学習課



◆身近な川の一斉水質調査

【日時】6月2日(日) 9時~12時30分 (小雨決行)

【集合】9時に志木市役所駐車場(志木市中宗岡1-1-1)

【内容】市内8ヶ所の水を採取し、パックテスト等で水質を測定します。

新河岸川水系約250カ所、全国約6,000カ所と連携した調査です。

【主催】NPO 法人エコシティ志木、新河岸川水系水環境連絡会、全国水環境マップ実行委員会

【費用】無料

■自然と文化を楽しもう

◆新河岸川ぶらり散歩 ~岩淵水門から隅田川へ~

【日時】3月20日(水・祝) 9時30分~15時頃 (雨天時は中止)

【集合】9時30分にJR埼京線「北赤羽駅」浮間口改札前

【内容】岩淵水門から隅田川沿いを歩く(距離は約11km)

【コース】新河岸川沿いを歩く~岩淵水門と荒川知水資料館見学~

隅田川及び荒川沿いを歩く~日暮里舎人ライナー「足立小台駅」で解散

(日暮里駅まで10分)

【持物】お弁当、飲み物、歩きやすい服装、あれば双眼鏡

【費用】300円/人(会員100円/人、中学生以下は無料)

【主催】NPO 法人エコシティ志木&(財) 埼玉県生態系保護協会 志木支部



会員募集中!!

◆ 11月 ◆

- 25(日) こもれびのこみち月例手入れ作業
- 26(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 27(火) エコシティ志木通信印刷発行作業
- 28(水) 臨時運営会議

◆ 12月 ◆

- 2(日) いろは遊学館利用者の会全体会
- 5(水) コミュニティ協議会地域活性化委員会
- 6(木) 新河岸川左岸ヨシ原刈込現地立会
- 8(土) 西原第三公園月例手入れ作業
- 10(月) 東上線沿線地域協議会
- 10(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 13(木) 臨時運営会議
- 16(日) 柳瀬川野鳥 & 川の生き物ウォッチング
- 16(日) 12月定例運営会議
- 20(木) コミュニティ協議会広報部会
- 23(日) こもれびのこみち月例手入れ作業
- 23(日) 水塚の文化研究会板倉町見学報告会

◆ 1月 ◆

- 12(土) 西原第三公園月例手入れ作業
- 13(日) 柳瀬川ガンカモ調査
- 13(日) 多自然川づくり交流会 (埼河連)
- 17(木) コミュニティ協議会広報部会
- 17(木) エコシティ志木広報部会
- 20(日) 柳瀬川野鳥 & 川の生き物ウォッチング
- 20(日) 1月定例運営会議
- 21(月) いろは親水公園堤外区域管理会議
- 21(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 23(水) コミュニティ協議会理事会
- 26(土) 西原第三公園手入れ作業
- 27(日) こもれびのこみち月例手入れ作業
- 28(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 29(火) 新河岸川流域川づくり連絡会

◆ 2月 ◆

- 3(日) 川の再生交流会 (埼玉県)
- 3(日) 水塚の文化研究会定例会
- 5(火) 柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
- 9(土) 西原第三公園月例手入れ作業
- 10(日) 柳瀬川冬の野鳥観察会
- 10(日) 川でつながる発表会
- 12(火) 2月定例運営会議
- 17(日) 柳瀬川野鳥 & 川の生き物ウォッチング
- 17(日) 志木まるごと博物館河童のつづら検討会
- 18(月) 志木小学校こどもエコクラブ



NPO法人 エコシティ志木

斜面林の手入れについて

エコシティ志木では2ヶ所の斜面林を定期的に手入れしています。場所は、いろは親水公園「こもれびのみち」と「西原第3ふれあい公園」です。

秋から冬にかけて斜面林には大量の落ち葉が溜まります。

公園の周囲や公園内の広場や遊歩道に溜まった落ち葉を熊手でかき集めたり、竹箒で掃いてきれいにします。斜面林には大きな落葉樹があり、かき集められた落ち葉はかなりの量になります。

落ち葉はゴミ処理に出す訳ではなく斜面林の中で処理し、自然に還っていきます。落ち葉を斜面林の中にばらまいても構いませんが、あまり厚く林床を覆ってしまうと野草が芽を出しにくくなりますので、何箇所かにまとめておいて処理する事になります。



そして、夏に伸びきって小道や広場まで覆い茂ってしまったササを刈りこんだり、邪魔な木の枝、折れたり枯れたりしている木を切ってきれいに整えます。

春からは、野草が芽を出し花咲かせる時期になりますので、林床を暗くしているアオキやシュロ等の常緑樹を刈り取って太陽の光があたる様にしてやります。

斜面林は、そのままでは上の方から土が崩れ、少しずつ下に落ちてきます。土が崩れるのを防ぐ為に斜面の途中に土留めを作ります。倒木や切った枝やササ等で土留めを作り、中に落ち葉や小枝を詰め込み、踏み固め、一部は斜面林内の通路としても利用します。

もうすぐ春です。皆さんも、自分の手で斜面林をきれいにしてみませんか。待っています！

「日々河童のつづら」(<http://shikikappa.blog54.fc2.com/>)でも様子が分ります。

(青木明雄)